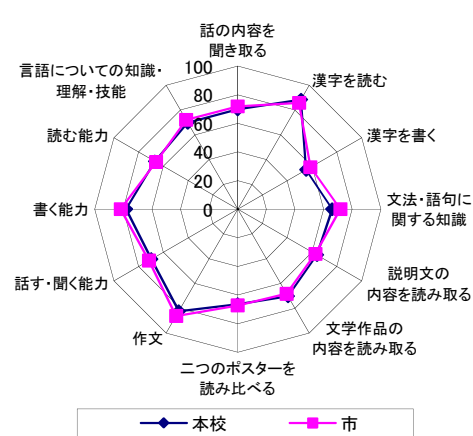


宇都宮市立旭中学校 第1 学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話の内容を聞き取る	69.9	71.9
	漢字を読む	88.3	85.7
	漢字を書く	55.2	58.7
	文法・語句に関する知識	66.0	71.7
	説明文の内容を読み取る	63.9	62.6
	文学作品の内容を読み取る	70.3	68.3
	二つのポスターを読み比べる	66.4	67.2
	作文	82.3	86.2
観点別	話す・聞く能力	69.8	71.7
	書く能力	78.1	81.8
	読む能力	66.9	65.9
	言語についての知識・理解・技能	69.9	72.1



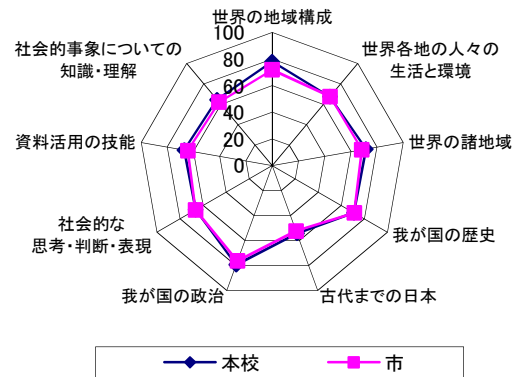
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話の内容を聞き取る	全体としては69.9%の正答率で、市の平均より2.0ポイント下回っている。特に、「目的に応じて考えを的確に話す」記述式の問題の正答率が、市の平均より3.7ポイント低かった。	聞き取りテストを行い、いつ、だれが、といった聞き取るポイントを理解させてメモの取り方を学習させていきたい。また、授業中に級友の意見を聞き取る意識を持って学習に取り組むようにさせたい。
漢字	漢字の読みの正答率は、88.3%で市平均より2.6ポイント上回っている。 漢字の書きの正答率は、55.2%で市平均より3.5ポイント下回っている。	漢字の読み、書きについては、漢字練習や教科書音読の際に板書して確認し、正しい読み方、書き方を定着させていきたい。
文法・語句に関する知識	正答率は66.0%で、市平均より5.7ポイント下回っている。「文節」に分けることはある程度できるが、「単語」に分けることを苦手になっている。	授業中、簡単な文が出てきた時に、文節や単語に区切る練習を多く設けていきたい。また、故事成語や慣用句についても、教科書に載っている以外に、問題集等を使って確認させていきたい。
説明文の内容を読み取る	正答率は63.9%と、市平均より1.3ポイント上回っている。特に、「文章の構成や展開をとらえる」問題の正答率は市の平均よりも高かった。	説明文の授業では、筆者が何をどんな順序で書いているか、考えさせるようにしたい。また、文章中の例が何を説明するための例で、どうして必要なのかも考えさせながら、筆者の論理の展開をみていくようにさせたい。
文学作品の内容を読み取る	正答率は70.3%と、市平均より2.0ポイント上回っている。「登場人物の心情を捉える」問題の1題目の正答率は11ポイント市の平均を上回ったが、もう1題では、7.9ポイント下回った。	文学作品の授業では、記述を細かく読み取り、「場面の展開に即して心情を捉える」ことを意識していきたい。「作品の主題を考える」学習では、ノートに記述させてまとめたり、グループ活動などで他生徒の意見も参考にできる活動も取り入れたい。
二つのポスターを読み比べる	正答率は66.4%と、市平均より0.8ポイント下回っている。「ポスターを作る際の工夫を捉える」問題では、市平均を0.8ポイント上回っている。	教科書の題材を中心に、理由を挙げて、どちらがよいかを比較して書く、ということに慣れさせたい。また、書くことについての抵抗を減らしていきたい。
作文	正答率は82.3%であるが、市平均より3.9ポイント下回っている。特に、「3段落構成で書く」という条件をきちんと満たしている割合が、71.3%で、市平均と比べても、2.7ポイント低い。	作文を書かせる際に、何段落で書く、などの条件をつけた作文を書く機会を増やしたい。よい作文の例や、直す必要のある例なども示して学習させていきたい。

宇都宮市立旭中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の地域構成	78.0	71.9
	世界各地の人々の生活と環境	67.5	67.7
	世界の諸地域	71.5	68.4
	我が国の歴史	70.9	71.2
	古代までの日本	54.3	52.3
	我が国の政治	79.4	76.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.4	66.5
	資料活用 of 技能	67.1	64.3
	社会的現象についての知識・理解	64.6	62.1



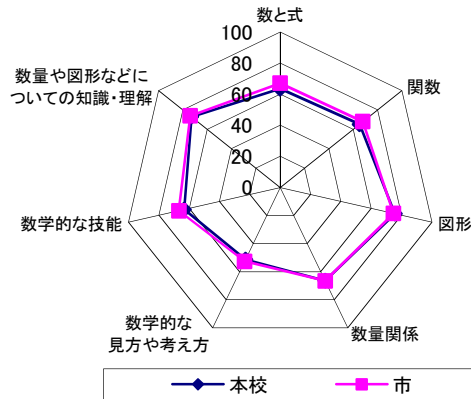
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の地域構成	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を6.1ポイント上回っている。 ・図中の1地点の緯度と経度を読み取ることは市の正答率を上回ってはいるものの、50ポイントに満たない。	・既習の知識を活用することがあまり得意ではないという傾向は日々の授業でも見受けられるので、学習した知識を活用する場をもっと設けて指導していきたい。
	世界各地の人々の生活と環境	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を0.2ポイント下回っている。 ・標高の高い地域に暮らす人々の生活について帰納的に考えることが市の正答率を大きく下回っている。	・多くの資料から、目的の資料を効果的に選択し、帰納的に考えられるよう指導していきたい。
	世界の諸地域	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を3.1ポイント上回っている。 ・人類の出現や甲骨文字についての理解などは市の正答率を上回っているものの、資料から弥生時代の社会の様子を考えることが市の正答率を大きく下回っている。	・文章資料については、読み取りに積極的に取り組めていないので、提示の仕方を工夫したりして難易度を考えて段階をふまえて指導していきたい。
歴史	我が国の歴史	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を0.3ポイント下回っている。 ・東京オリンピックまでの日本の社会の変化についてが下回っている。	・3年の歴史で現代史を扱う際に、今回の結果をふまえて小学校の内容の復習を丁寧に行うよう指導していきたい。また、時代の流れと出来事がしっかりつながるよう指導していきたい。
	古代までの日本	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を2.0ポイント上回っている。 ・特に大化の改新についての理解は市の正答率を大きく上回っているが、遣隋使については－4.5ポイント、平城京については－1.8ポイントと下回っている。	・基本的な歴史事項がしっかり整理されていないので、小テストに工夫を加え、単元全体を大観しながら定着を図れるように指導していきたい。
公民	我が国の政治	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を3.1ポイント上回っている。 ・国民主権についての理解は市の正答率を上回ってはいるが、解答にばらつきが大きく、定着できているとはいえない。	・身近に現代社会をとらえられるような資料を取り上げ、興味・関心が高まるよう指導していきたい。

宇都宮市立旭中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	63.5	67.1
	関数	65.2	67.9
	図形	75.6	74.7
	数量関係	66.5	66.5
観点別	数学的な見方や考え方	51.4	52.6
	数学的な技能	63.4	66.8
	数量や図形などについての知識・理解	73.0	73.9



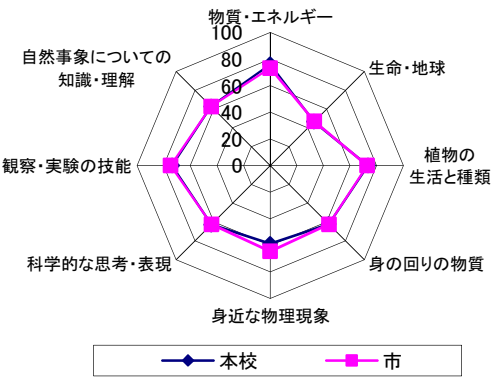
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・宇都宮市と本校を比較した場合、3.6ポイント下回っている。 ・正、負の数を数直線上で読み取ることや表すことの正答率は市よりも高い。しかし、数量の大小関係を不等号を使って表したり、正負の数を用いて5人の生徒の平均点を求めることの正答率は低い。	・現在取り組んでいる計算ドリルを今後も継続することにより、正負の数や文字式について様々な形の(分数や少数等)計算練習を行い、計算技能を高めていく。 ・文章題等の題意の読み取り力をつけ、筋道を立てて、課題を解決するための説明力を身につけさせることが大切である。そのために言葉で説明することを授業の中で大切にし、他者に説明する活動を多くとっていきたい。
関数	・宇都宮市と本校を比較した場合、2.7ポイント下回っている。 ・表から反比例の式を求めたり、グラフから座標を読み取る問題の正答率は市より低い。	・関数の概念を再確認し、伴って変化する数について理解できるようにする。そこから比例の式を求めたり、式からx,yのどちらか一方がわかっているときの他方の値を求めることができるよう、数と式の領域の技能を振り返りながら学習させることが大切である。方程式の単元を復習することで、比例の式を求めていくような基本的な技能習得につなげていきたい。
図形	・宇都宮市と本校を比較した場合、0.9ポイント上回っている。 ・今回の図形問題は小学6年の内容である拡大図についての理解力を見る問題であったが、縮図の問題の正答率が市よりも高い。	・小学校の内容の理解を深めながら、中学の図形の基礎基本を身につけさせることが大切である。 ・作図の技能習得のため、図形の性質を理解させ、それを使って作図をすることを丁寧に教え、授業の中で作図の活動の時間を十分に確保する。
数量関係	・宇都宮市と本校は正答率は同数値になっている。 ・今回の数量関係の問題は小学校6年の内容である順列と組合せの基本的な問題であったが、正答率が低く、知識が身につけていない。	・数量関係の分野で確率(順列・組合せ)は2学年の学習内容になる。学習時期では小学の基礎的な学習内容を復習しながら、授業を進め、知識の定着を図りたい。

宇都宮市立旭中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	75.9	73.3
	生命・地球	46.6	47.0
	植物の生活と種類	73.4	72.9
	身の回りの物質	62.3	62.4
	身近な物理現象	58.9	64.5
観点別	科学的な思考・表現	62.7	62.5
	観察・実験の技能	73.7	74.8
	自然事象についての知識・理解	62.8	62.8



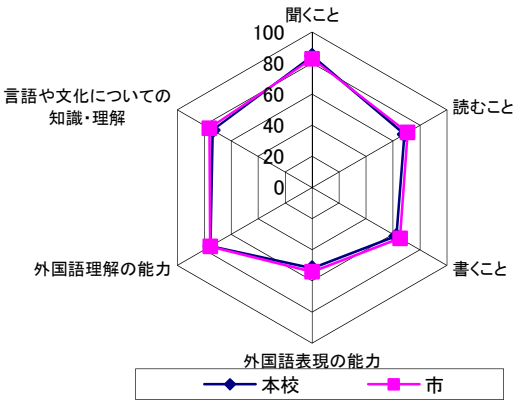
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	てこのはたらきでは、てこの規則性に対する理解度が高く、てこの原理を利用した道具についても理解されている。電気の利用では、授業で行う実験において、条件をそろえるという観点を意識させたり、考えさせることが少ないために正答率が低いと考えられる。	てこをはじめとして小学校で学習した内容についても、同じような内容の学習を始めるときの導入として復習するなど、繰り返し知識の確認をする機会を授業の中でつくる必要がある。 また、実験を行う時の条件の揃え方なども生徒に考えさせる機会を持つようにしたい。
生命・地球	砂と泥の堆積の仕方では、砂より泥の方が先に沈殿すると考えている生徒が多く、また、「火山灰」という条件を水の中での堆積と同じようにとらえている生徒も多い。	堆積岩の観察を丁寧に行い、観察のポイントを明確に示して調べさせることが大切である。また、地層のでき方や地層中の土砂の粒の形についても演示や映像などを利用して復習する必要がある。
植物の生活と種類	顕微鏡の正しい使い方が身についていない生徒が多い。また、葉のはたらきを調べる実験では、正答率が低いことから、実験の流れや実験からわかることが身についていないか、もしくは光合成のはたらきについての理解が少ないように思われる。	授業の流れをよく意識して、特に実験では教科書だけでなく、生徒が自分たちで考えたり、計画する場面が必要である。
身の回りの物質	授業や教科書では空気中から水中に光を当てたときに反射が起こる現象については触れていないこともあり、多少混乱があったと思われる。屈折についての理解も低い。	生徒が実際に角度を測定して規則性を発見するというような授業を光の学習で積極的に取り組んでいきたい。
身近な物理現象	水上置換法は授業中に繰り返し行ったので、よく理解されている。水素の発生に使用する物質は、その他の気体の発生に使用する物質とよく似ているので、学習してから少し時間がたって、あいまいになっていると考えられる。	毎回実験を行うような授業内容であるが、1つ1つの事象について、知識の確認をおこなうなど、50分の授業の中で確認の時間を入れられるようにしたい。

宇都宮市立旭中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	84.5	82.8
	読むこと	68.5	70.8
	書くこと	62.4	65.2
観点別	外国語表現の能力	51.8	54.1
	外国語理解の能力	75.6	75.7
	言語や文化についての知識・理解	73.8	76.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、1、7ポイント上回っている。大問4つの中では、3の問題での正答率が高かったことから、放送された英文の要点を聞き取る力については、わかっていることがわかる。しかし、4の英語で答える問題の正答率は市と比べると4、1ポイント下回っている。時刻を答える基本問題であったが、書いて答える力が不足していることがわかる。	・今後もできるだけ生徒が英語に触れられるよう、英語を多用する。 ・あいさつ後毎時間帯学習としてQ&Aを行っているが、既習内容を取り入れながら質問とその応答の仕方を工夫し、質問されたことに対してすぐに反応できる練習を重ねていきたい。 ・ALTとのTT授業では、新しい文法の導入の際など、自然な会話のやり取りを通して、会話の内容を聞き取らせる、把握させるような工夫をする。
読むこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、2、3ポイント下回っている。大問5の(1)④の正答率の低さが目立つ。三単現の否定文では、動詞に原形を用いるという文法の基本が理解されていないことがわかる。また、大問6の正答率も低い。まとまりのある英文を読み取る力をつけなければならない。	・教科書の本文以外の長文に触れさせることが少なかったため、学年のまとめの授業では、長文プリントを作成し、読み取りの時間を確保したい。またその際は、内容に関する英問英答と、日本語での推論質問を含んだワークシートを作成して取り組ませることで、読む力とともに、書く力も身につけさせたい。
書くこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、2、8ポイント下回っている。大問5の正答率が低いことから、基本的な単語を書く力がついていない生徒が多いことがわかる。しかしながら、大問8の語順を並べ替える問題での正答率が高い。単語を書く力は弱い、「主語＋動詞＋目的語」という英文の構造は理解できている生徒が多いことがわかる。	・予習の習慣づけ・授業中のノート指導を今後もしっかりと行う。 ・書く力をつけさせる工夫として、今後も基本文テスト、単元末テストをレッスン毎に行う。 ・基本的な文や単語を書く時間(ワークブックの活用)を授業中に必ず確保する。 ・会話活動の後には、必ずわかったことを英語でまとめさせる。(回収後チェックし、個別指導) ・下位の生徒に対しては、理解できるまで何度も繰り返し書く練習ができるよう、時間を確保して個別指導を行う。